



大庭小学校だより



2023年1月

明けましておめでとうございます。

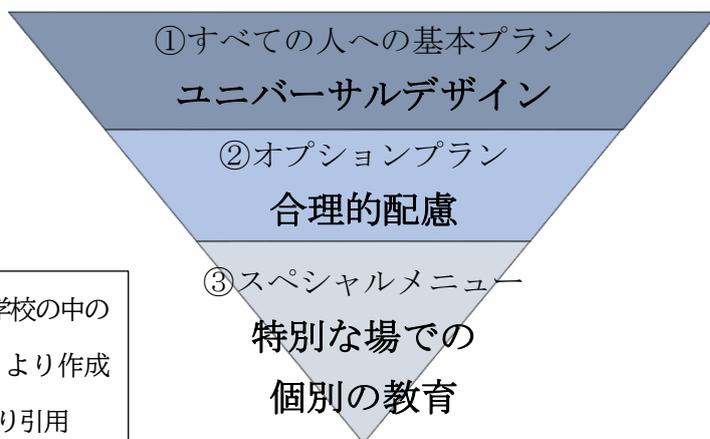
昨年2学期あたりから徐々にウィズコロナウイルスの学校活動となりつつあります。今年も感染拡大予防には気を付けながら、学校生活を充実させていきます。本年も本校へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。さて、1月最初の話題は特別支援教育についてです。

特別支援教育・インクルーシブ教育システム・共生社会

特別支援教委育コーディネーターだよりでお伝えしたとおり、支援の必要なお子さんには様々な学びの場があります。昨年12月に文部科学省が公表した調査によると、通常の学級に在籍する児童生徒のうち知的発達に遅れはないものの「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒数の割合は8.8%（小学校10.4%中学校5.6%）です。この数値は、10年前6.5%、20年前6.3%より大きくなっており、文部科学省は増加の理由を特定することは困難としながら、教師や保護者の特別支援教育に関する理解の進展、メディア接触の増加による文字や対話の減少を原因として推定しています。前者であれば、素晴らしいことです。

子どもたちが将来社会の中で自立する力をつけていくためには、一人一人の力を十全に伸ばしていく必要があります。その子その子にあった学びが必要ということです。

日本では、インクルーシブ教育システムといって「障がいのある子と障がいのない子が共に学べる環境と、障がいのある子が個別に学べる環境をどちらも整備し、その間に連続性を持たせて、すべての子どもがどちらの環境も活用できるように*」制度設計をしています。下図はそのイメージ。



本田秀夫「学校の中の
発達障害」より作成
*も同書より引用



1月10日始業式 ひさしぶりに体育館に
全校児童が集合しました。

どこか固定された一つの学びの場しかないのではなく、本人が自分の意志で決定することが大切です。例えば、特別支援学級に在籍している子どもは、個別の学習の場と交流学級での集団の学びの場の両方を場面・場面で活用することができます。

①のユニバーサルデザインは、すべての子どもを対象に行う配慮です。例えば、口頭の説明では聞き漏らしてしまう子のために、教師が黒板に説明のポイントを書くという配慮は、どの子どもにとっても有益です。また、練習問題を何問やるかを習熟度に応じて一人一人が選択すると誰もが自分の力に応じた学習に取り組めます。AIドリルもこの発想ですね。

②の合理的配慮は、①を行った上で、なお学習や生活に困難がある子どもへの配慮です。黒板をノートに写すことが難しい子どもがタブレットで撮影してからノートテイクをする、音に敏感な子どもがイヤーマフをつけるなどなどです。合理的配慮は、民間事業所などを対象に社会の中でも義務化に向かっています。

③が特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室、にこにこサポートティーチャーによる特別な場での個別の教育です。ここでは「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するため」の自立活動という学習を取り入れます。支援学校・学級では、自立活動以外についても、その子どもの特性に応じて個別にカスタマイズします。②③の場合小学生が自分で要望することは難しいと思いますので、保護者の方からご相談いただくとありがたく思います。お子さんの様子を見て学校からお声がけする場合もあります。

特別支援教育といえば、③のイメージが強いのですが、ここまで述べた通りすべての子どもを対象とした特別ではない特別支援教育という考えが大切です。岡田尊司著「発達障害グレーゾーン」では、医療上障がい認定されない方がより大きな困難を抱えやすい場合があることが書かれています。どこかではっきりと線が引かれるわけではないのです。グレーというよりもグラデーションのように濃い薄いがあると考えた方がよいのだと思います。

障がいの有無にかかわらず、何らかの理由で学校に来にくい子どもや日本語の学習支援が必要な子どもなども当然対象となります。現に今困っている子どもたちには大人による特別な配慮や支援が必要です。本校には、それを充実させるスタッフが様々に配置されていますが、一人一人に応じた教育を届けるためにさらなる拡充が必要です。

特別という言葉に注目がいきますが、文部科学省は特別支援教育を「障がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎」としてしています。東京パラリンピックでの「#WeThe15」という「世界人口の15%、12億人にあたる障がいのある人や障がいのある可能性のある人を数として可視化することを目的とした世界的な人権運動キャンペーン」も記憶に新しいところです。



学校は小さな社会であると言われてますし、そうあるべきだと考えています。学校全体が共生社会の基礎となれば、これに勝るものはありません。私の初夢は、だれもが大切にされ、だれもが自分の力を十全に発揮している自尊感情ばっちりの大庭小学校です。この夢をできる限り多くの方と共有し、夢の実現に向かいたいと思いますので、本年もどうぞよろしく願いいたします。

またしても紙幅のほとんどを固い内容にしてしまいました。重要な内容とお許しく下さい。日々の学校の様子については、ぜひホームページをご覧ください。(文責 佐藤)

